



言葉がつなぐ世界遺産

学びナビ

事例

事実と意見

『子どもの権利』では、文章の構成を捉え、問題提起や反論などの論理の展開に着目して読むことを学びました。

ここでは、筆者の主張（意見）だけに注目するのではなく、主張（意見）を支える根拠^{こんきよ}としてどのような事例をあげて文章に説得力をもたせているか、事実と意見の関係に注意して読み、筆者の考えについて理解を深めましょう。

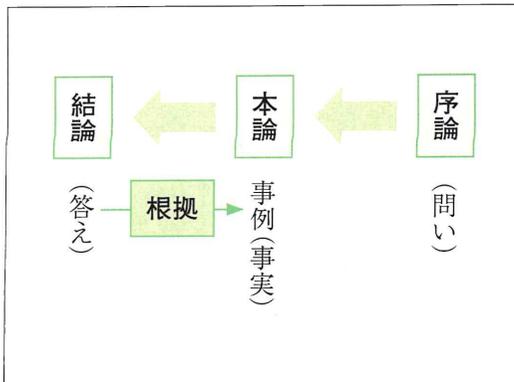
筆者は、読者に伝えたいことがあるときには、まず、どのような話題について述べるのかを問いとして伝え、関心をもってもらおうようにします。続いて、内容をよく理解してもらい、答えへと導く根拠となる事実（事例）を示します。

問いと答え、事実と意見が、どのように示されているかを捉え、筆者の述べ方を確かめながら読みましょう。

目標

- 事実と意見など、情報と情報との関係について理解する。
- 事実と意見の関係などについて注意して読み、筆者の考えを捉える。

段落の役割／自分の脳を知っていますか
 問いと答え／森には魔法つかいがある
 反論／子どもの権利
 事例



さまざまな事例の取り上げ方

説明的な文章において、筆者は、自分の主張を支える事例の取り上げ方を工夫して、立場を明確にしたり、具体的に考えを述べたりして読者に理解を促します。

同じ内容の異なる事例を取り上げること
もあれば、本やインターネットなどで調べた事実や直接体験したこと、人から聞いたことなど、出所の異なる事例をあげて論を展開する場合もあります。

筆者の主張と、その主張を支える事例の取り上げ方に着目して、文章を読み進めましょう。

異なる観点からの根拠(事例)を複数示されると、読者は筆者の主張についての理解が深まるね。



○異なる観点の事例をあげる例

問題提起

・火星探検は必要か。

事例の観点

- ・科学技術(ロケットや観測機械の開発など)
- ・資源(地球以外からの資源の供給など)
- ・環境(人口問題、火星移住など)
- ・経済(新しい産業の創出など)
- ・思想・教育(人類の夢、宇宙への興味・関心など)



ヒント

● 筆者は、どのような根拠(事例)を示して考えを述べているか、考えてみよう。

● 筆者の事例の取り上げ方はどのような効果を生んでいるか、考えてみよう。

↓ P 216
みちしるべ 2



言葉がつなぐ世界遺産

橋本 典明
はしもと のりあき

東照宮とうしょうぐうに代表される日光にっこうの社寺は、その装飾そうしやくが絢爛豪華けんらんごうかなことで知られている。

この日光の社寺が世界遺産に登録されたのは、一九九九年十二月のことである。対象は、東照宮と二荒山神社ふたらさん、輪王寺りんのおうの二社一寺にある百三棟ひゃくさんとうの建造物群と、これらを取り巻く境内けいだいや参道、そして山林などの、いわゆる文化的景観を含む地域だった。

この一帯は、高い山々の間に位置するため、雨が多く、冬になると雪ゆきに閉ざされてしまう。文化財にとっては、一年をとおして厳しい自然環境かんきやうだといえるだろう。雨や雪による湿気しつげは、建物や彫刻ちゆうこくを容赦ようしやなくむしばむ。色鮮あざやかな漆うるしや絵の具は、歳月さいげつを経るうちに剥落はくらくし、輝かがやきを失っていくのである。

そこで日光では、江戸時代初期の創建時から、建物や彫刻を守るために、二十年

意 景観
▼ 飾 豪 華 棟 環 湿 彫 鮮 漆 剥 剝



日光周辺の略図



彩色が剥落した彫刻

ごとに定期的な修復が続けられてきた。
世界遺産登録に先立つ一九九八年十二月、審査をするイコモスの専門家たちが、日光の現地調査を行った。その際、彼らは、社寺や景観のすばらしさを称賛する

▼ 審
イコモス
ICOMOS (国際記念物遺跡会議) のことで、文化財保存活動を推進する国際的な非政府組織。

とともに、建造物を修復し保存するための方法に対して、そろって舌を巻いたという。専門家たちが驚いたその方法とは、どんなものなのだろうか。

その一つは、「修復記録の蓄積」である。

日光社寺文化財保存会の浅尾和年さんに、その一部を見せていただいた。目の前に広げられたのは、一匹の竜が描かれた、畳一畳ほどの大きさの和紙だった。見取り図と呼ばれるものである。浅尾さんによると、実物の彫刻と同じ大きさや色合いで描かれているという。迫力に満ちた、色鮮やかな竜である。

そして、余白には、修復のための指示が細かな筆文字で書きこまれていた。確かに、彫刻の絵を正確に描くことで、形や色は描き留めることができる。しかし、細かな技法や微妙な色合いなどの表現方法は、絵だけで完全に伝えることは難しい。絵で伝えることの困難な情報を、後世の職人が見たときにもわかるよう、丁寧に文字で書き留めていたのである。

見取り図の一枚には、五重塔の軒下に据えられた、十二支のとらが描かれていた。余白の指示は、鼻、目、耳と、部分ごとに二十あまりに及んでいる。

「目 朱ノク、リ」(目の外側の輪郭は、朱色で囲む。)

「中 白群地二元ヨリ群青ヲフカス」(目の白い部分は、水色地に濃い青で縁をぼかす。)

15

10

5

日光社寺文化財保存会
一九七〇年に日光の各社寺によって組織された。日光の社寺の保存修理や調査研究、防災管理などを行っている。

▼ 迫 描

▼ 微 塔 軒 朱

ク、リ

「ククリ」と読む。

▼ 濃

文 確かに、……。しかし、……。

考 情報

意 書き留める



東照宮五重塔の軒下に彫られた
実物の十二支のとら。



とらを丹念に写し取った見取り図。とらだけでなく背景の竹までが描かれている。



見取り図の余白に記された筆書きの文字。



建築物や彫刻の見取り図は数千枚にのぼる。

「ヒトミ、朱土、ク、リ星 墨」(瞳は茶色で塗り、輪郭と中心の部分は黒色で塗る。)

書き記された情報に従えば、完全に元どおりのものを描くことができるという。

その指示が、職人にとっては何よりも頼りになる修復の手がかりなのだ。

「例えば、色の境目をぼかしながらグレーから白に徐々に変えていくというような技法がありますが、そうした技法で描かれていることを、ここに書きこんでいきます。絵の具を何度も塗り重ねて盛り上げ、立体感を出す置き上げという技法などもそうです。この絵だけですと、平面的な彩色なのか、置き上げなのかわからないわけです。ですから、これは立体的な模様だということを、情報として書きこまなくてはならないのです。」

先人から私たちへ、そして私たちから未来へと受け渡していくために、言葉による情報が欠かせないのだと、浅尾さんは語ってくれた。

木造の社寺建築では、建物そのものの修復保全は容易なことではない。それにもまして難しいのが、建物の装飾を修復しながら後世に伝えていくことである。日光では創建当時から修復のたびに、職人たちが、彫刻そのものとその技法を一枚一枚の見取り図に記録し続けてきた。今、保存されているのは明治期以降に描かれた数千枚であるという。これが、まさに「修復記録の蓄積」なのである。

▼瞳

▼塗

▼頼

▼彩

先人

昔の人。前人。ここでは、日光の社寺の修復にあたってきた昔の職人たちのこと。

意 書き記す

考 ……に従えば

文 例えば

類 徐々に

意 彩色

文 まさに

しかし、どんなにすばらしい見取り図があっても、それをもとに修復できる技術者がいなければ、日光の世界遺産を保存し続けることはできない。

そこで二つめにあげられるのが、「世代を超えた技術の伝承」である。

現代では、日光ほどの装飾を社寺に施すことはきわめて少ない。加えて、継承者が減少し、昔ながらの材料も確保しにくいため、技術の伝承はいっそう難しくなっている。そうした中、日光では、日光社寺文化財保存会の技術者たちが、まさに口移して彩色技術の詳細を伝えながら、修復を行っている。

手塚茂幸さんは、彩色を始めて六年めになるといふ。この道四十年近くになる澤田了司さんの指導を受けながら、彫刻の細部に丁寧な色をつけていた。

日光では、創建当時から彩色に岩絵の具や金箔が使われてきた。多彩に見えるが、実際に使われている絵の具は、十種類にも満たない。微妙に混ぜ合わせ、また、立体的な置き上げ技法による陰影などを利用して、複雑な色彩を生み出している。さらに、その日の湿度や温度によっても、絵の具の溶き方をきめ細かく変え、微妙な色合いを確かめながら、彫刻の一つ一つの部分を丁寧に塗らなければならぬ。実に繊細な技術は、師匠から弟子に、丁寧に説明され受け継がれていく。この日も、師匠である澤田さんの言葉を、噛みしめながら聞いている手塚さんの姿があった。

15

10

5

日光社寺文化財保存会の技術者たち

日光では、社寺の創建直後から、江戸幕府の管理のもと、職人たちが修理や修復にあたった。

明治時代に入ると、一八七九年に保晃会という組織が結成され、江戸期までの職人たちが引き継ぎ業務に携わった。

その後、一八九九年に、栃木県と各社寺がつくった日光社寺大修理事務所が修復業務を受け継ぎ、現在、日光社寺文化財保存会の技術者たちが社寺を守り続けている。

▼詳

岩絵の具

天然の鉱物を原料にした絵の具。

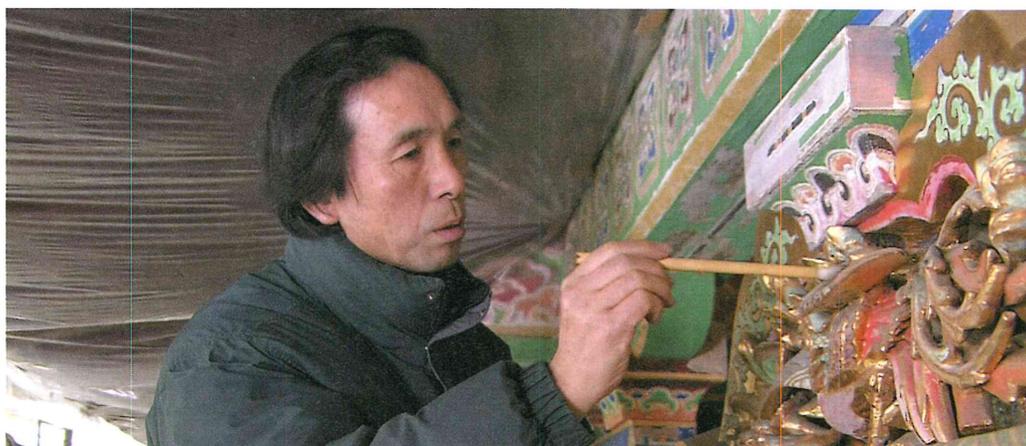
▼織

類 多彩

意 陰影

意 色彩

意 噛みしめる



立体的な彫刻に、さらに立体的に彩色していく澤田了司さん。

ここでもまた、技術を受け渡していくのは、言葉なのである。

「(教えられたことを)自分の肌はだでつかんで、初めてできるようになると思います。それまではまだまだ修行しゅぎょうです。」と、作業の手を止めることなく、手塚さんは語った。

言葉で教えられたことを自分の技術へと高めていく。彼らが受け継がなければ失われる技術であるだけに、手塚さんの言葉はとても重みのあるものに感じられた。

もう一つ、二人のやりとりをうかがっていて印象深く感じたことがある。それは、これがただ師弟ていの間だけで技術を受け渡すのではないということだ。師匠の澤田さんにしても、江戸時代から連綿と技術を伝承してきた職人の連なりの最後尾にいるにすぎない。そしてその連なりは、弟子の

15

10

5

文 意
うかがう
……にすぎない

肌



橋本 典明 「一九六二」

大阪府に生まれた。NHKプロデューサー。

制作担当番組にNHKスペシャル「始皇帝」

「文明の道」などがある。

《出典》『NHKスペシャル 日本の世界遺産 秘められた知恵と力』の一部を書き改めたものである。

手塚さんを経て、おそらく顔を見ることもない幾世代もの後の職人たちへと続いていく。二人は、こうした長い技術伝承の鎖の一つなのだというのを、強く意識しているという。

澤田さんは最後に、「先人から受け継いだ見取り図を使って、同じ色や技法で仕事ができる。本当にうれしいことです。三百年以上も昔の人たちの意気ごみを背負って仕事をしているのですから。」と語ってくれた。

創建以来、どれほどの職人たちが同じ思いを共有してきたことだろう。こうした思いを胸に、職人たちは、絵や文字で記録を残すとともに、直接言葉で語ることで、技法や技術などを伝えてきた。これこそが、審査に訪れたイコモスの専門家たちを驚かせた「修復記録の蓄積」と「世代を超えた技術の伝承」なのである。

千 みちしるべ

内容を捉えよう

- ① 職人たちが受け継いできた(1)「修復記録の蓄積」(P 210 L 3)と(2)「世代を超えた技術の伝承」(P 213 L 3)について、言葉はどのような役割を果たしているのか、まとめてみよう。

(1) 「修復記録の蓄積」	
(2) 「世代を超えた技術の伝承」	

読み深めよう

- ② 筆者は、文章の中でどのような事例を取り上げて主張を述べているか。論理の展開を捉え、筆者の説明や主張を整理しよう。

自分の考えを伝え合おう

- ③ 「言葉がつなぐ世界遺産」という題名にこめられた筆者の考えについて、「蓄積」「伝承」「共有」などの言葉を使いながら話し合おう。

大橋さん ほかにもキーワードになるような言葉を確かめよう。

金子さん 文章の中に登場する職人のかたの言葉にも、同じようなものがあるね。

中井さん 筆者がなぜ職人のかたの話を文章の中に取り入れているのかも、考える手がかりになるかもしれないね。

言葉・情報

言葉と表現

この文章には、人物の語りが「」の形で引用されているところがあるが、どのような効果もたらされているか考えよう。

(1) このような引用を挟みこむことによって、どのような効果もたらされているか考えよう。

(2) 「」で引用した内容を、引用ではなく本文の中に入れて紹介するとしたら、どのように書きかえるとよいか考えよう。

課題を提示する表現

……とは、どんなものなのだろうか。(P 210 L 2)

結論づける表現

・これこそが……なのである。(P 215 L 9)



振り返り

- 問いと答え、意見と根拠など、情報と情報との関係について理解しているか。
- 筆者が取り上げる事例と意見との関係に着目しながら読み、筆者の考えを捉えているか。
- 筆者の考えについて話し合ったことを踏まえ、事例の効果について学んだことを、自分が話したり書いたり読んだりするときどのように生かせるか考えよう。

日本の伝統的な文化や技術について考える

P 218からの『参考 地域から世界へ』の文章を、次のような観点で読み、『言葉がつなぐ世界遺産』とあわせて、考えたことを話し合ってみよう。

- ・ 日本の文化に対する世界からの評価
- ・ 伝統的な技術の継承や発展

この教材で学ぶ漢字

208 豪
ゴウ 文豪
208 飾
シヨク 修飾
カザル 首飾り

208 棟
トウ 病棟
ムネ 棟上げ
208 華
カ 栄華
ハナ 華やか

208 湿
シツ 湿原
シメル 湿り気
208 環
カン 環状
カク 環状

208 彫
チヨウ 彫像
ホル 木彫り

208 鮮
セン 鮮度
アジヤカ 鮮やかさ

208 漆
シツ 漆器
ウラシ 漆塗り

208 (剥) 剥
ハク 剥奪
ハガス 切手を剥がす

209 審
シン 審議

210 描
ビヨウ 描写
エガク 思い描く
カク 絵を描く

210 迫
ハク 切迫
セマル 期限が迫る

210 微
ヒ 微笑

210 塔
トウ 鉄塔

210 軒
ケン 一軒
ノギ 軒下

210 朱
シュ 朱印船

210 濃
ノウ 濃厚
コイ 塩味が濃い

212 瞳
ドウ 瞳孔
ヒトミ 美しい瞳

212 塗
ト 塗装
ヌル 塗り絵

212 頼
ライ 信頼
タのむ 頼もしい味方
タよる 頼りがい

212 彩
サイ 多彩

213 詳
シヨウ 詳細
クわしい 詳しい話

213 織
セン 織毛

214 肌
ハダ 肌着

新出音訓

- 208 東照宮 (トウ)
- 208 境内 (ケイ) (ダイ)
- 208 閉ざす (トイズス)
- 210 丁寧 (テイ)
- 213 弟子 (テイ)
- 214 師弟 (テイ)
- 215 訪れる (おとずれる)